

「注意」モードになった時に

YOUメッセージからIメッセージへ

2019.11.27

No.83

校長 渡邊 幸二

授業中やそうじの時間など、学校をぶらぶら回っていると、子どもたちの意外な一面が見えてうれしくなる時があります。

チャイコフスキー「1812年(序曲)」

よつば学級では、毎朝「スタート日記」なるものを書かせているようです。今朝、Kさんが日記を書くのを見ていたら、「ぼくは、昨日、チャイコフ……」と書き始めました。何を書くのだろうと興味深く見ていたら、何と、見出しの曲名を書き始めたのでした。子どもにもポピュラーな「白鳥の湖」とか「くるみ割り人形」なのかと思っていたので、かなりの驚きでした。彼と話をしていると、かなりいろんな曲を聞いているようで、この「1812年」という曲には、中盤と終盤にKさんの好きなどところがあるのだそうです。さっそく校長室に戻り聞いてみましたが、なかなか迫力のある、しかもどこかで聞いたことのあるフレーズが流れてきて、私も好きになりました。

6年生の子どもと、このチャイコフスキー作曲「1812年」の意外な組み合わせに、私は驚かされただけでなく、

子どもだと思って、上から目線の見方をしてはいけない

と、再度思い知らされることになりました。



Iメッセージで伝えましょうよ！

昨日のそうじの時間、いつものようにペーパーのモップでそうじをしながら回っていました。いい姿が見えると、写真に収めながら回っています。モップのペーパーにゴミがたくさん付いたので、中央廊下を掃除していた子どもたちにとってくれるようお願いしたら、ほうきでそのゴミを一所懸命取ってくれていたE.Tさんは、今度は素手でていねいに取り除いてくれました。嬉しかったですね～！担任の圭亮先生にもすぐ伝えました。

放課後、(これも3年生なのですが…)北前の練習を見せてもらいましたが、**新米の3年生の何とうまいこと！**休み時間にけっこうがんばって練習していたのは知っていましたが、こんなに見事だと感動します。私たちは、こんな時、

えらいね！ 立派だね！ がんばったね！

という言葉で、ほめるという行為をとるわけですが、この「ほめる」という行為も「(あなたは)えらいね」というYOUメッセージの一種で、上から目線の言葉がけになります。私は、対等な対話のためには、できれば「(私は)感動しました！」とか「(私は)とても嬉しくなりました！」というIメッセージで伝えた方がいいと思っています。

ほめる時もそうですが、子どもを注意する時も、できる限りIメッセージで表現してみませんか！「～している○くんを見るのは、(私は)悲しいです…」「そういう卑怯なことをする○さんを(私は)残念に思います。」と。いわゆる注意ではない、その言いの方が、他者に思いを馳せられる(他者意識を働かせた)子どもに育つと思うのです。